3/4 朝日

国内異論ロシア圧殺

表層 深層

ウクライナに侵攻したロシアのプーチン政権が、国内の反戦世論の徹底的な抑え込みに乗り出した。デモを容赦なく取り締まり、侵攻に批判的な言論を圧殺するためメディア統制を厳格化。強権体質をむき出しにする政権にあらがう動きは本格化していない。当局の弾圧を前に、市民の間には無力感が漂う。現段階では反戦のうねりは広がっていない。

ウクライナ侵攻

8000人拘束 反戦うねり広がらず

▽排除

「西側諸国の情報戦は前例のない規模だ。うその情報が爆撃のようにロシア社会を襲っている」

軍事行動に関する「偽情報」の拡散に対して最長15年の懲役刑を科すとした法律が成立した4日。マトビエンコ上院議長は厳戦をこう強調した。

法律は外国人も対象。最長で組織的な拡散に10年、情報が「深刻な結果」をもたらした場合は15年を科す。曖昧な規定で恣意的な運用が可能だ。メディアが侵攻や戦争といった言葉を使うことを事実上禁じ、政権に従わない勢力の排除を狙う。

これを受け英BBC放送など欧米メディアは記者の身に危険が及ぶ可能性があるとして、報道活動の一時停止を決めた。

▽誘導

「ネオナチから解放された集落をご覧ください」。ロシア政府系テレビ「第1チャンネル」はロシア軍が制圧したウクライナ首都キエフ近郊の村からの記者リポートで、市民の犠牲なく軍事作戦が遂行されたと伝えた。

プーチン政権はウクライナの親欧米政権がロシア系住民を虐殺していると一方的に主張し「ネオナチ」と呼ぶ。国営テレビは連日、ウクライナ軍の攻撃を受けたとされる住民が映く映像を流す。

国営メディアが進める世論誘導の効果で、市民には「軍事作戦」を支持する意見は少なくない。モスクワの運転手イラクリさん(57)は「米国からロシアを守るための作戦。もっと早くやるべきだった」と賛意を示す。

だが侵攻に反対する人々は確実に存在している。人権団体によると、反戦デモに参加して拘束された市民は、5日までに全国で8千人を超えた。警察のデモ取り締まり強化で、モスクワ中心部の広場では反戦ポスターを掲げようとしただけで即座に連行される状況だ。

IT関連の職に就くドミトリーさん(34)は「これは紛れもない戦争。声を上げたいが、捕まってしまうなら意味がない」と無力感を吐露。反戦デモに広がりはないが、国際的な制裁で経済危機が深刻化し厭戦気分が高まった時、プーチン政権が侵攻を継続できなくなる可能性はある。

▽疑問視

有力者や企業からも侵攻を疑問視する声はある。プーチン大統領に近い新興財閥オリガルヒの一人で大富豪のデリパスカ氏は「平和がとても大事だ」と通信アプリに投稿。石油大手ルクオイルは3日、侵攻の即時停止と外交解決を要求。海外企業との取引中止で打撃を受けているためとみられる。

軍内部が一枚岩になっていない可能性もある。侵攻前の1月末、退役将校でつくる「全ロシア将校の会」のイワショフ会長は、侵攻すれば「ロシアという国家に疑問を投げ掛けられる」との声明を発表、プーチン氏に辞任を求めた。

元チェス世界王者で反体制活動家のカスパロフ氏は「プーチン政権は金で支えられている。金が回らなくなれば周囲の忠誠心もなくなる」と指摘。制裁で市民生活が窮すれば、政権基盤が揺らぐ可能性があると語った。

プーチン政権の情報統制

政府・議会による統制

- 「偽情報」拡散に最長懲役15年
- 軍の信用失墜情報の流布にも刑事罰
- 英BBC、米CNNなどが報道活動停止

欧米行政による弾圧

- ロシア全土で8000人超拘束
- フェイスブックやツイッター遮断

メディアへの統制

- リベラル系ラジオ「モスクワのこだま」解散
- 独立系テレビ局「ドシチ」業務一時停止

プーチン大統領

(タス)

平和がとても大事だ！

ウクライナでの悲劇を懸念

交渉を通じた解決支持

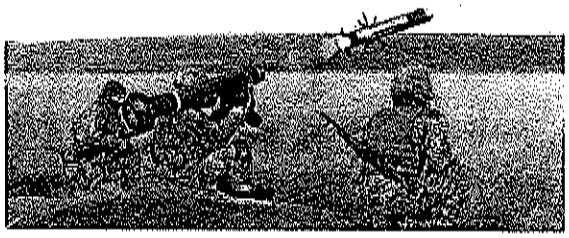
政権に近いオリガルヒ　石油大手ルクオイル

ロ、降伏狙い民間人攻撃か 米CNN

【ワシントン共同】米CNNテレビは4日、米欧当局者の話として、ウクライナに侵攻したロシア軍が爆撃の標的を軍施設中心から各都市の民間人に移し、ウクライナに降伏を迫る作戦に転じているとの見方を報じた。米政府は、ロシアがウクライナの首都キエフを即座に制圧して政権を瓦解させる当初の計画に失敗したとみている。

民間人に甚大な犠牲が出ることへの懸念が広がっており、当局者の一人はCNNに、自らの経験則からロシア側は「人命尊重という点で、全く異なる基準を持っている」と指摘した。

ウクライナ南東部マリウポリはロシア軍に包囲され、砲撃で多数が死傷したが、犠牲者数は分かっていない。



ウクライナ東部ドネツク州での演習で、携帯型ミサイル「ジャベリン」を使うウクライナ兵＝1月（米国国防省提供・AP＝共同）

米兵器で口戦車に対抗

ウクライナ軍が予想以上の戦い

欧米メディア

【ベルリン共同】ウクライナ軍が、数で勝るロシア軍の戦車部隊に米国から供与された携帯型ミサイル「ジャベリン」などの高性能兵器で抵抗し「予想以上の戦い」（欧米メディア）を繰り広げている。ロシアに比べ兵力が4分の1以下のウクライナ軍には今も米欧から兵器が届く。首都キエフに包囲網が迫る中でも、士気は旺盛という。

ドイツなどのメディアによると、ウクライナ軍を支えているのが小型兵器のジャベリンだ。射程は約2・5キロで、兵士が肩に担いで発射。ミサイルは目標に向けて自動的に飛び、戦車の側面や装甲の比較的薄い上部を撃破する。ウクライナ軍は待ち伏せ策を取っているとみられ、破壊されたロシア戦車の映像が連日、報じられる。一方、米当局者はロシア軍には徴兵で動員され、訓練が不十分な若い兵士が多いと述べた。

ウクライナ東部では2014年以降、軍と親ロシア派武装勢力が戦闘。米国は18年にジャベリンの提供を始めたほか、ヘリコプターなどを狙う携帯型地対空ミサイル「スティンガー」も送り、ウクライナ軍の装備は徐々に充実してきた。

今回、米軍輸送機は2月24日のロシアのウクライナ侵攻直前まで、キエフの空港にジャベリンやスティンガー、弾薬類を運んだ。総量は2月だけで1500トンを記録。英国も携帯型対戦車兵器を届け、26日にはオランダや兵器輸出に慎重なドイツもスティンガー供与を表明した。

現在はウクライナ国境に近いポーランド南部の空港が輸送拠点になっているとみられる。キエフまでの距離は約700キロ。供与兵器は多数の小型車両などでウクライナ国内に運び込まれている可能性があるという。ドイツ当局者は3月2日、兵器をウクライナ側に引き渡したと語った。